

MONTHLY-J

マンスリーJ

新年号

2010 JANUARY

日本 GAP 協会 技術委員長 特別 Interview

技術委員会で改訂作業進む JGAP2010の方向性

技術委員長 亀若誠氏

『JGAP 管理点と適合基準』および『JGAP 運営・審査・認証の規則』を改良、開発する機関として発足した技術委員会。現場から寄せられる声をもとに基準の改良を進め、より使いやすい JGAP の発行準備を進めている。2010 年に発行される最新版ではこれまでにない大きな変化が予定されている。委員長を務める亀若誠氏に改訂版の方向性をうかがった。

2009 年 3 月から、JGAP の技術委員会が新たな形で組織されました。当委員会の目的は『JGAP 管理点と適合基準』および『JGAP 運営・審査・認証の規則』を改良し、より使い勝手の良い JGAP を開発することです。

すでに青果物部会、審査認証部会あわせて 9 回の会合が開かれ、活発な議論が行なわれています。2010 年度に発行される新たな JGAP の方向性は以下の通りです。

1. 版の名称は「JGAP2010」。小数点表記から年数表記に

まず、新しい版の呼び名は「JGAP2010」となります。これまでは「JGAP 第1版」「JGAP 第2.1版」といった表記をしていましたが、「タイトルに小数点がつくと分かりにくい」「いつ改正され、どれが最新版なのか分からない」などの意見が出た

め、年数表記に改めることにしました。

2. 国内項目と GLOBALGAP 同等性項目とに分かれる

日本 GAP 協会は基本方針で「国際的に通用する JGAP」を謳っています。今回の改訂においてもそれは変わらず、GLOBALGAP との同等性を確保することにしています。

しかし、GLOBALGAP の中には、日本国内の農業現場には馴染みにくい項目がありました。そのため JGAP2010 では「管理点と適合基準」を国内項目と同等性項目に分けることを予定しています。JGAP 認証だけ必要な場合は国内項目だけに取り組み、GLOBALGAP 認証も必要な場合はそれらの両方に取り組むという仕組みです。JGAP 認証だけを必要としている圧倒的多数の農場が取り組みやすい構成にします。日本の農業環境・社会環境に最も適

した GAP 基準であると同時に、世界に通用する農場管理レベルを目指します。

3. JGAP の理念を確認し、主体的な取り組みを宣言

JGAP の立ち上げ当初は、農業



亀若 誠 (かめわか まこと)

1963 年に大阪府立大学を卒業後、農林省(現農林水産省)に入省。大臣官房審議官兼農蚕園芸局大臣官房技術総括審議官を歴任。1995 年に退職。同年 JICA 理事、1999 年農林水産技術情報協会理事長を経て、社団法人大日本農会副会長に就任。日本 GAP 協会技術委員には個人としての参加。